

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和3年3月1日

公表:令和3年3月5日

学童教室くろーばー

		チェック項目	はい	いいえ	無回答	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8	0	0		
	2	職員の配置数は適切である	8	0	0	送りバス等で人が減る時間帯もあるが、声かけを行い安全に努めている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	8	0	0	スロープあり。 三角板等利用して段差をなくしている。 車いす洗面台ではないので片手ずつ手を洗うことも多い。	車いす乗車のまま使用できる洗面台になると時間の短縮につながるのよい。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	0	1	計画を立てる前に話し合いをしている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	0	1		
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	0	1		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	1	3		第三者評価については今後検討していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	0	1	研修会の参加希望が通りやすい。 今年度はコロナの影響で前年度よりは機会が減ったが職員間で学び合うよう努めた。 今年度は希望していた外部研修は全てキャンセルになり、残念であった。通常は希望する研修にできる限り受講してもらいたいと考えている。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8	0	0	スタッフ間で話し合いをしてから作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8	0	0		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	0	1	スタッフ間で話し合いをしてから作成している。 学童の下校時間が遅い日にスタッフでカンファレンスを行っている。 保育の立場からと医療の立場から全員で話し合いを行っている。 日々は忙しいが、火・金で定期カンファレンスを行って情報を共有。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	0	0	イベントは積極的に取り入れている。 季節に応じたお話しや工作、また流行している題材を取り上げるなどしている。毎年少しずつ変化、改良している。	

適切な支援の提供	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7	0	1	1便下校、2便下校に応じて学校休暇など活動時間の長短に応じて内容を考えている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7	0	1	制作等ではできる活動、機能を生かせるよう個別で制作を変えている。 年齢や障害に応じて計画している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	1	0	大事な情報は口頭での説明がある。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	2	1	送迎車に乘車し、そのまま直帰する職員もいるので、毎日ではできていない。週2回は、ほぼ振り返りの時間はも当てている 配車の都合で火・金に行っている。 送りバスに出ているため、終了後必ずとはいかない状況。カンファレンスで補っている。	送迎等で出入りがあるため、当日中の対面で打合せや振り返りが難しいが、書面等も活用し、伝え漏れ等がないようにしていく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0	1		
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7	0	1		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	6	0	2		ガイドラインの周知を再度全職員にする。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	1	1	担当者会議、今年度は参加していない。 担当者会議は行われていない。行われることがあれば、最もふさわしい者が三角する予定。	担当者会議が適切に行われるように相談事業所に働きかけを行っていく。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	8	0	0	学校の年間、月間予定表は保護者を通じて入手できている。また、送迎時に学校の先生にお話を聞ける機会もある。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	6	0	2	看護師が多くて良い。 保護者を通じて行っている。 緊急連絡簿を保護者に提出していただいており、主治医の連絡先等は把握している。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6	0	2	ほぼ併設の児童発達支援事業所の卒室生が通室してきており、連携は取れている。 当教室の児発からの持ち上がりなので、情報共有、相互理解ができている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	0	2	6	まだ卒室した利用者(高校卒業)がいない。 該当者がいないが、情報提供はできる体制になっている。 まだ該当者がいないので私は把握できていない。	情報提供が速やかに行えるような体制を整えておく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	0	3		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	3	3	支援級に通っていたが九郎治が在籍していたときは行き来があったが、現在はコロナ禍ということもあり、ない。 例年は交流しているが、今年度はコロナの影響でしていない。 コロナで難しい状況にある。 ミニコンサート等には児童館の子どもたちを招待したり、児童館に遊びに行ったりしている。	コロナ禍が収束したら、改めて交流活動について検討する。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	2	1	5	区の障事連等には参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	0	1		
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4	1	3	職員はペアトレの研修を受講した経験はあるが、保護者に対してそれを活かした支援は行っていない。(重症心身障がい児) ペアトレの知識がある者が支援を行っている。	ペアトレに該当する児がいない(対象が重症心なので)これまで通り保護者に寄り添う支援をしていく。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8	0	0		
31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	0	1			

保護者への説明責任等	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	2	4	年1回は開きたいところであるが、支援学校の保護者は学校への送迎その他で出向かれることも多いため、あまり負担をかけたくないと考えている。また、学年を超えてお互いにお知り合いなことも多いので…。 保護者会等もコロナの影響で今年はない。例年は行い、支援している。	コロナ禍が収束したら、改めて保護者の負担がない保護者同士の連携について検討する。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8	0	0	苦情受付体制を整えている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8	0	0	写真がたくさんです。 年4回はニュースを発行し、活動写真を掲載している。	
	35	個人情報に十分注意している	8	0	0		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	0	0		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	2	4	例年は行っているが今年度はコロナの影響で行っていない。	コロナ禍が収まったら検討する。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	8	0	0		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	0	1		
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	0	1	年1回以上行っている。	
						年1回以上は研修を内部で行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	8	0	0	考え方の基本は根底にあるが、嫌がることは避けて、児の好きな物に興味を向けるように対応している。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8	0	0		
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8	0	0	口頭でも伝達されている。		